

道徳科（人権）学習指導案

1 主題 共に生きる

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

自分たちの行動や考えを互いに見直すことで、よりよい自己や集団をめざそうとする態度を育てる。

4 指導計画

（1）これまでの学習

道徳科「自分以下を求める心」（わたしの願い）	1 時間
道徳科「裏庭のできごと」（あかつき）	1 時間
道徳科「二枚の写真」（あかつき）	1 時間
総合的な学習の時間「ユニバーサルデザイン」	5 時間
総合的な学習の時間「福祉体験学習」	2 時間
学級活動「リフレーミング」	1 時間
学級活動「よいとこさがし川柳」	1 時間
学級活動「ほめ言葉シャワー」「内観日記」「マイセルフ（自尊感情を高めるためのポートフォリオ）」「なりたい自分」「BDS（Birthday Share）」「Show 認シート」	常時

（2）現在の学習

道徳科「メガネと補聴器」	1 時間（本時）
--------------	----------

（3）これからの学習

道徳科「ひび割れ壺」	1 時間
------------	------

5 本時の学習

（1）目標

カスミちゃんと母親の会話から、人のもつ偏見や差別意識が障がいであることに気付かせ、互いの人権を尊重しようとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値	B-（6） 思いやり、感謝
-------------	---------------

（2）普遍的な学習のテーマ・・・ 個人の尊重 共に生きる

個別人権課題名・・・ 障がい者

（3）展開

学習活動	指導上の留意点
1 アンケート結果を確認する。	○アンケート結果を示し、実際に偏見や差別が存在していることを認識させ、自分事として捉えさせる。①
2 カスミちゃんが「髪を短く切って」と母親に言ったことについて考える。	○周囲の理解が安心感を与えることに気付かせる。②
障がいとはどのようなことだろうか	
3 母親自身の障がいに対する見方の変容について考える。	○母親の気持ちの変容から、障がいとはどのようなことであるのかを考えさせる。①②

（4）評価

・ 偏見や差別が障がいとなっていることを理解し、共に生きようとする意欲を高めることができたか。

【価値的・態度的側面】①

・ 仲間の意見をしっかりと受け止め、自分の意見を伝えることができたか。

【技能的側面】②